

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。いよいよ夏本番。暑さも厳しくなります。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしている今年のかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

さて、夏本番となれば、子どもたちにとって「待ち遠しいのは夏休み」と聞いて名曲「ヴァケーション」の歌詞とメロディが頭に浮かんだ皆さん、弘田三枝子や中尾ミエがひらめいた人は中高年(笑)。最近ではPUFFYや観月ありさもカバーしています。オリジナルの歌手はコニー・フランシスです。

今年幼稚園に入った園児にとっては初めての夏休み。せっかく覚えたお遊戯も休み明けには忘れていくかもしれない。と書いたお遊戯、実はこれも仏教用語です。

仏教用語的には「ゆげ」です。

「遊戯」の「遊」は自由自在であること。「戯」の元の漢字は「礙(げ)」。この字は般若心経をはじめ、いろいろなお経に登場します。「妨げ」という意味です。

「遊戯」は「妨げ」から自由自在であること。人間は何か「妨げ」に遭遇すると、「あの人のせい」「これのせい」と自分以外の何かに原因を押しつけます。

しかし、かわら版でお伝えしてきたとおり、不満や不安は全て自分自身の欲、人間の煩惱から生じます。欲があるから人を裁き、出来事を裁き、「あれは良い」「これは悪い」と自分の価値観で善悪を決めつけます。

そういう心があるから、何かに心が掻き乱され、「妨げ」「礙」「戯」となります。

「遊戯」は、そういう「妨げ」から自由自在であること、すなわち自分の欲や煩惱から解放されている状態を意味します。

なるほど、園児たちの無垢(むく)汚れのない)な心は、世間体や親の価値観から解放されて「遊戯(ゆげ)」であるが故に、「お遊戯(ゆうぎ)」は自由自在、伸び伸びと楽しいものです。お寺が運営している幼稚園が多い日本。そんなことも「お遊戯」という言葉の誕生に影響しているかもしれないですね。

仏教は生きるための哲学です。自分の考えや欲に執着することなく、自分と他人を比較したり、分別することなく、まわりの出来事と。そういう姿勢が「遊戯(ゆげ)」なのです。

ひとりでも多くの方が、自分自身の心を見つめ、「遊戯」な気持ちで日々を過ごし、平和で穏やかな人間関係や社会を実現していきたいものです。

※

合掌。



## かわら版執筆者 大塚耕平

覚王山「耕庵」 <https://ko-an.blog/>

愛知県名古屋市生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。2002年から地元の歴史・文化の継承と振興のために、日泰寺の縁日(毎月21日)に「弘法さんかわら版」をお配りしています。2013年から知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

全国先達会、愛知県先達会、東日本先達会などで仏教関係の講演を行っているほか、毎年年末には日泰寺西隣の専修院で「弘法さんを語る会」を開催。2017年から中日文化センター「くらしの中の仏教」講座の講師を務めています。

著書に「弘法大師の生涯と覚王山」(大法輪閣)、「仏教通史」(同)など。愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務した後、2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。

現在、早稲田大学と藤田保健衛生大学医学部の客員教授を兼務。元中央大学大学院客員教授(2005~17年)。早稲田大学博士。



大塚耕平事務所 ☎0527571955 担当:あさい  
名古屋市千種区覚王山通9-19 覚王山プラザ2F

